



2008～2009年度  
国際ロータリーのテーマ

ROTARY INTERNATIONAL DISTRICT 2760  
国際ロータリー第2760地区ガバナー 片山主水

地区報 2008～2009

08年度(平成20年度)ロータリー愛知 81

# 奉仕の理想

ロータリー理解推進月間・追悼記念週間(1/25～31)

1月

2009年1月1日

## 目次

|         |       |   |
|---------|-------|---|
| 受賞      | ..... | ① |
| 活動      | ..... | ② |
| 催し      | ..... | ③ |
| 旅行記     | ..... | ④ |
| 私とロータリー | ..... | ④ |
| 随筆      | ..... | ⑥ |
| 川柳      | ..... | ⑥ |
| 善語座右    | ..... | ⑦ |
| 片山主水    | ..... | ⑦ |
| 投稿要領    | ..... | ⑧ |



【一日のはじまり 伊勢湾初日の出】

撮影 西名古屋分区 名古屋西RC 長谷川 道春

伊勢神宮初詣で訪れた際、伊勢志摩スカイラインで、日の出を待って撮影。雲が多く、ヤキモキしたが、雲間から顔を出した一瞬を捉えた。



【しし舞】 撮影 西三河分区 西尾KIRARA RC 三浦隆司

## 受賞

●半田南RC(南尾張分区)

「愛知県更生保護大会において  
法務大臣感謝状を受章して」

幹事 中井 民雄

去る、11月20日(木)平成20年度愛知県更生保護大会に於いて半田南ロータリークラブは「更生保護推進のため貢献した」として法務大臣感謝状を戴きました。

大会は午後1時30分より半田福祉文化会館(雁宿ホール)にて開催され、愛知県下の保護司関係者ならびに多数の来賓を迎え、参加者総数約1300名の中、会場において石川信行会長はこの栄誉をクラブを代表して受けられました。

この大会は「愛知県の更生保護関係者が一堂に会し、式典を挙行し、功労者の顕彰を行い、改めて課せられた責務の重大さを認識し、意識の統一と士気の高揚を図り、更生保護事業の一層の充実発展を期するとともに、安全・安心な国づくり、地域づくりに貢献しようとする」目的で行われました。正しくその目的に相応しく、厳かで熱気に溢れた素晴らしい大会であったと感動しまし

## 平成20年度 愛知県更生保護大会



た。再犯防止に向けた取り組みは更に大きくなっており、就労支援事業もその一つとして大きな期待をし、我々も大いに協力をしていく必要を新たにしたいところです。

我々クラブは、今後とも更生保護制度への支援を継続することで安全・安心な国づくり・地域づくりの一助となれればと考えております。



## 活動

### ●常滑RC(南尾張分区)

#### 「桜の植樹」と

#### ロータリークラブ

#### 「四つのテスト」陶板の披露

社会奉仕委員会伊奈一郎

常滑ロータリークラブでは2008、09年度社会奉仕事業として常滑中学校生徒とクラブ全メンバーが参加しての心の通い合える「ふれあい事業」を11月19日(水)に常滑中学校にて実施いたしました。今回のプロジェクトは第2760地区における地区補助金交付事業として「桜の植樹」とロータリークラブ「四つのテスト」陶板の披露を兼ねての事業となりました。市内4中学校の内、校内に桜の木がないのは常滑中学校だけであり、植樹による緑化事業に貢献するというところで地球環境を考えてもらう機会となり入学式等でのフォトスポットになれば幸いに思います。また、今回の事業に併せて常滑ロータリークラブから常滑中学校へ焼成窯を寄贈させていただきました。毎年常滑中学校では口ク口実習が実施されており、今後大いに活用していただき「焼物の町常滑」の伝

統を受け継いでいただくことを期待しております。

### ●名古屋名駅RC(西名古屋分区)

#### 「私の青空 八百津の森づくり」

会員 鎌屋克利

名古屋名駅ロータリークラブは、「私の青空 八百津の森づくり」に協賛を続けて3年目になります。この活動は大学生協・ANAGグループ主催の環境貢献活動で、当クラブでは社会奉仕・環境保全・新世代の3委員会合同の活動として、当初から協賛しています。

10月18日(土)、文字通り「空の青さがまぶしい秋晴れ」に恵まれ、学生、一般参加者に地元関係者を加え250名の人達が参加して盛大に開催されました。我がロータリー



クラブ関係者からも13名の皆さんが参加し、若者と一緒に森の中に分け入り間伐作業に汗を流しました。日頃の喧騒を忘



れて作業に没頭でき、良いリフレッシュになりました。

地元の皆さんからご提供いただいた豚汁、森林組合の方々の指導、京都大学教授による青空塾、ミニ・コンサートなど、盛りだくさんの内容で、その模様は、11月1日(土)の夜にZIP・FMが1時間の特番を編成して放送され、多くのリスナーから大変な反響を呼びました。



左から 藤井会員ご夫人、鎌屋克利、藤井圓隆(新世代委員長)、前田幸雄、算 正紀、宮前隆文(環境保全委員長)、田口望(社会奉仕委員長)  
手前 座っているのは左から 赤塚八百津町長、大川宏会長

### ●岡崎城南RC(西三河中分区)

#### ミャンマー教育支援プログラム

会長 近藤正俊

当岡崎城南RCは、クラブ独自のWCS活動としてミャンマーで教育支援を行っている。1997年ミャンマー人の米山奨学生をお世話したことからこの活動が始まり、ロータリーは単年度と言われているが、歴代会長の理解の元、この活動は11年間継続され、毎年会員有志が現地ミャンマーへ赴いている。ところで「ミャンマーは危険じゃないの」と良く聞かれるが、東南アジアの国の中で、意外と安全な国と思う。



第1図書館 2002年



第2図書館 2003年



第3図書館 2004年



第4図書館 2005年



第5図書館 2006年



本クラブの11年間に渡るこのミャンマー教育支援プログラムは、クラブ予算からの事業費、会員からの募金、そしてこの活動に賛助いただいた元会員や会員外の方々の寄付金を合わせ総額\$41300ドル(約420万円)にもなる。今までに図書館建設、図書購入、給水施設、道路整備、学校施設整備などに使途され、また会員の各事業所やご家族から寄贈を受けた文房具や子供服など段ボール50箱(500kg以上)の物品を現地に提供することが出来た。

現在このプログラムによりザガイン管区シュエボ(マンダレーから北西170km)などに建設した5棟



ミャンマーでは人も時間も物も全てゆっくり動いているような感覚を得る。しかもミャンマーの人々の笑顔は、あわただしく暮らす我々

の図書館「KIBOH」は、図書を含め地元小・中・高校の数千人の児童生徒に利用され、給水施設は安全できれいな飲水を子供たちに与えることが出来、道路整備は、雨季シーズンに頻繁に起きる道路冠水から子供たちを守り、また、文房具、衣服などの寄贈品は、現地ボランティア婦人グループから経済的に恵まれない数多くの子供達に公平に配られ、我々の心が彼らに届いている。

当初からこの事業に「まず我々で出来ることから始めよう!」「力まずにやろう!」「継続することが重要!」と心を合わせ、肩の力を抜き、その結果、回数を重ねることが出来た。我々の出来る範囲内で無理をしないことが事業継続の原点でした。毎年ミャンマーを訪問している会員たちが何時も感じていることは、

「我々の心は彼らに届いている。」「力まずにやろう!」「継続することが重要!」と心を合わせ、肩の力を抜き、その結果、回数を重ねることが出来た。我々の出来る範囲内で無理をしないことが事業継続の原点でした。毎年ミャンマーを訪問している会員たちが何時も感じていることは、

ミャンマーでは人も時間も物も全てゆっくり動いているような感覚を得る。しかもミャンマーの人々の笑顔は、あわただしく暮らす我々

## 催し

●豊橋RC(東三河分區)

わがクラブの職場見学会

職業奉仕委員長 紅林友昭

職業奉仕月間にちなみ、10月16日

(木)例会終了後、職場見学会を行った。クラブ会員自らが職業奉仕を行なう現場を見学しようと、社会奉仕委員長である松本孝一会員

が代表を務める「mixs(ミックス)」を訪問し、「腹式呼吸と細胞活性ストレッチ」による「自発治癒力」の指導現場を見学することとなった。

昨今、人間が元来持っている身体の機能はさまざまな原因で損なわれ使われなくなってしまう、その結果、健康でない状態に、ひどい時には不治の病に陥ったりしている。そ

にとって心暖かく、時を過ごさせてくれるようにも感じる。

昨年、現地ミャンマーは民主化デモで治安の悪化、本年5月にはサイクロンによる大被害もあり、心配もしていたが、今では平常の生活に戻ったようだ。是非今年もこもたちの笑顔を楽しみにミャンマーに赴きたい。(2009年2月に訪問の予定)



職場見学先「mixs.」において、豊橋RC会員が、腹式呼吸によるストレッチを行っている様子

れを「腹式呼吸と細胞活性ストレッチ」により失われている「自発治癒力」を引き出そうというのだ。

28名の会員を乗せたバスは、例会場から20分ほどのところにあるスタジオ（トレーニング場）に到着し、直ちに体操着に着替える。トレーニングを受ける会員は裸足になった。松本委員長自らが講師となつて、理論の講義と、トレーニングによる指導を行なった。参加者は真の健康の大切さを実感でき、かつ予防にもつながるといふ有意義な職場見学会となった。

## 旅行記

●岡崎城南RC（西三河中分区）

パイロイトRC例会への出席

桐利 利次



職場見学先「mixs.」において、「腹式呼吸と細胞活性ストレッチ」の指導を松本孝一会員が説明している様子

パイロイトでは、毎年7月から8月にかけてワグナーの音楽祭が行われる。ここ3年間は連続で出席している。現地では自分でも驚くほど友人に恵まれ、2年連続でRC例会に妻と共に参加することが出来た。日本の例会とは異なり、点鐘やRCソングの斉唱はなかった。飲み物は各自で注文し、会計は会場で清算した。初年度の会長はリュックを背負って登場した。今年度の会長は力強い握手で迎えてくれた。我々を覚えてくれたロータリアンの多いことに感動した。音楽祭の期間の卓話者には演

出家・合唱指揮者・歌手など関係者が選ばれる。ヨーロッパ・アメリカなどからワグナーが例会に参加した。パイロイトでは人々の暖かみを感じることが多い。歴史ある樹木に囲まれ、ワグナーという音楽文化に支えられているパイロイトのナチュラルな美しさに心ふるわせる旅であった。

## 私とロータリー

●犬山RC（東尾張分区）

我流「ロータリー綱領」

日比野 良太郎

二十七年前、四十才の時に犬山ロータリークラブに入会させて頂きました。それ以来、何度も綱領を読んだり唱和してきました。なかなか難解と思ってきました。英文も辞書片手に何度も翻訳してもみしました。綱領の精神は少しずつ理解出来る様になりましたが、表現が難しく適切な文章になりません。

この様な状態のままで今や新会員拡大は重要な課題です。ロータリーへの入会勧誘の折にこの綱領を理解して頂けるでしょうか。

私の独断と偏見で下記のように翻訳してみました。皆様からのお叱りのご意見をお待ち致して居

ります。

「綱領」

ロータリーの目的は賞賛される企業の基本として奉仕の精神を奨励し、育成すること。さらに次の事項を奨励育成することである。

第一、奉仕の機会には仲間を広げましょう

第二、事業及び専門職の道德を高揚しましょう。

全て必要な事業の価値を認識しましょう。奉仕の機会を持つて、ロータリー各員の職業を品性あるものにしましょう。

第三、ロータリアンは個人として、職業人として、地域社会の一員として、常に奉仕の精神で行動しましょう。

第四、奉仕の精神で結ばれた事業家及び専門家の世界的集団として国際間の理解と親善と平和を促進しましょう。

●名古屋栄RC（西名古屋分区）

「奉仕の理想」

服部 元英

養護学校の子供達にとって、一日



で一番楽しい時間は、お昼の食事の時間です。

お昼が近づくとも子供達は急に浮き浮き、ソワソワし出し、何人かは待ちきれないようにそっと教室を抜け出し、給食室の窓を少し開けて、中の様子を覗き込みます。中では、あちこちの大きな鍋から白い湯気が立ち上り、うっとりするような美味しい香りが、鼻一杯に広がります。何人かの白い割烹着を着たおばさん達が「トントントントントントント」と心地良い音を響かせて、大根や白菜を切っています。子供達の顔は、思わず喜びで一杯になります。

ところがある日、その光景が一変しました。お昼時間になって給食が配られても、誰一人手をつけようとしません。ある子は泣きだし、ある子は騒ぎ立てる始末です。先生方は唖然としました。目の前の光景を信じられないように見つめていました。何が原因なのかさっぱりわかりません。考えても考えてもわかりません。そして、翌日の事です。お昼の時間が近づいて来た時、先生方は給食室の方から「ガーガーガー」という金属音が教室に聞こえてくるのを耳にしました。子供達がいつせいに怯え始めました。あれだ、と先生方は思いました。

「ガーガーガー」という音は、給食係のおばさんがなくなったので、野菜を切るために購入した、機械のエンジン音でした。先生方はすぐに機械を止めました。しばらくすると給食室の方からいつものように「トントントントントント」という優しい音が響いてきました。子供達は安堵し、顔は喜びで一杯になりました。

この話は何十年前も前私が耳にしたものです。私達ロータリアンは社会に向かっていつも「トントントントントント」と発信し続けたいと思います。

#### ●豊橋ゴールデンRC(東三河分区)

##### 私の社会奉仕活動

福沢省吾

2002年7月、地元企業オーエスジのバスケットボールチーム、フェニックスが日本バスケットボール界最高峰のJBLへ参戦してからアツという間に駆け抜けた6年間の。2勝19敗と最下位に沈んだ屈辱の1年目をバネに2年目の5位、4年目の準優勝そして2007、08の3位とたくましく成長した。それは東京、大阪など大都市に拠



© Hamamatsu-Higashinikawa Phoenix



© Hamamatsu-Higashinikawa Phoenix

点を置く巨大チームへの挑戦でもあった。安穩と妥協を廃し、ただひたすらに頂点を目指して努力を積み上げた。その結果、頑張れば小さな街でも大都市に勝てるということを実証することができた。この大きく成長したフェニックスが今春、時代を先取りして県境を越えた浜松市と連携し「浜松・東三河フェニックス」と地域名称を付けて更なる進化をめざして動いた。私は市民がフェニックスを地域社会の貴重な活力資源と捉え、応援することで地域社会への誇りと愛着が生まれ、それが魅力ある活力に満ちた地域社会に繋がると信じ、日々活動している。

#### ●岡崎城南RC(西三河中分区)

##### ボイススカウトから

##### 学んだことが...

永田裕

先日、我がクラブがライラセミナーを開催する機会に恵まれ研修会に参加させていただきました。現代の若者の討論会を聞きながら自身の若い頃をなつかしく思い出すことができました。そしてまた偉大なる故ポール・ハリス氏への感謝の念がよみがえってきました。

私は彼が世界の子供たちに「自立」の大切さを教育する目的で作られた組織「ボイススカウト」に11歳から10



© Hamamatsu-Higashinikawa Phoenix



年間在籍しました。そこでは奉仕の心、他の人々への思いやりの大切さなどをいろいろな体験を通して教えられました。

それはロータリアン精神にも繋がっていると思います。その精神の中で育まれるライラ活動、インターアクトクラブ、ローターアクトクラブの活動に地球上のより多くの若者たちが参加・体験できれば、世界の平和へとつながるのではないのでしょうか？

そしてその根幹となる私たちロータリアンひとりひとりが現代の若者の手本となるべき日々の活動の必要性を実感しました。

## 随筆

●田原パシフィックRC(東三河分区)

農業一年生

河合 正幸

会社を若い人たちにまかせ、米作り・野菜作りを始めた。

いざ始めてみると、これがなかなか奥深い。おかげ様で周りは先生ばかりだったので、まずはよく話を聞くことに努めた。

まず、米作りから始めた。無農薬にこだわり、堆肥作り。化学肥料を

使用せず、堆肥での米作りは非常に難しい。その年の天候にも左右されるが、まず大事なのは成長させすぎて、稲を倒伏させないことだ。具合をみながら堆肥を控えめに調整する。まずまず自慢できるおいしい米が出来るようになった。

野菜も無農薬で作る。大根は8月、9月、10月と三回種蒔きをする。これは自家用としては大事な事である。料理をする時に収穫する。里芋も8月末から3月まで。いつも新鮮、収穫したてが美味い。ジャガイモ、タマネギは保存がきくので早めに穫って貯蔵する。難しいのが、キャベツ、白菜、ブロッコリーなどの葉野菜である。これらは若芽の時に、農薬を多少使用しないと虫の害に遭ってしまう。夏場は虫が多く、油断していると新芽がないということもしばしば…。どんな薬を使用するか、量はどれくらい使うか試行錯誤である。最近何かと食の安全が脅かされるニュースが多い。安心して食べられる野菜を自分で作りたいとつくづく思う。近未来、食糧不足になるといういろいろな分野でささやかれているが、立派な農業者になりたいと思う。

## 川柳

●愛知長久手RC(東尾張分区)

後期高齢生きる美学も迷路入り  
美しく老いたい今日も背を伸ばす  
古希越えて余生豊かに初暦

吉田 一子

●新城RC(東三河分区)

前総理 何を話しても様になり  
小泉海 欠伸丸姿 見せ消える  
列なして 猫飯求める 地区大会

鳥居 栄一

●岡崎城南RC(西三河中分区)

宴の席 大暴落は俺の株

和田 彰

●豊田三好RC(西三河中分区)

初日の出 見えたぞ五光と内孫を  
澄みわたる 天まで届く山車囃子

永井 光彦

青木 敏郎

1月号 新年

1月号 新年

善語座右

ガバナー  
片止之

新（あら）たしきの年の始めの初春の

今日降る雪の  
いやしけ吉事（よごと）

憂いつつ丘に登れば花いばら

故郷の道に似たるかな

お正月とともに、焼餅の芳しい溜まりの匂いに、つい百人一首の断片がひやくにんしゆの調子で自然と口を衝いて出ます。僅か六度の音程内の抑揚の少ない緩やかなリズムです。五と七との組合せで出来た日本の詩歌の伝統形式です。

お正月ですから、ちよつと、和歌等の調子のことを考えます。

誤解のないように言っておきますが、日本の和歌等が韻文であるのは、三十一文字・十七字と言われる字数によるものではありません。拍子・リズムの調子によるものです。

冒頭に挙げた一首は、一句から五句まで切れることのない五五七七の大伴家持の短歌です。調子に問題はありません。二つ目の歌はどうでしょうか。五七五・七五とこれまでに無い五と七の組合せですが、違和感は全然ありませんでしょう。（実はこの歌は、蕪村の俳句二句を併せて縮めたものです。）

試みに、「憂いつつ」を外して、七五七五に

丘に登れば花いばら

故郷の道に似たるかな

としたらどうでしょう。これなども、なかなか行けますね。俳句よりいろいろな面で利点があつて、俳歌という新種ジャンルができそうです。

焦点は、この調子の良さの原因です。何なのでしょう？

その理由は、紙数の余裕がありませんから結論を先に言いますと通常日本語は二音で一拍を形成し、端数の一音は一音で一拍を形成します（あるいは半音と半拍で1拍を形成しといった方が良いかもしれません）。従つて五字句は三拍、七字句は四拍です。しかし、五字句は最後に一拍の休止が必ず入ります。七字句は一拍の休止はなく、次に句のある時は休止なく直ぐ次の句に続きます。ですから、ひとかたまりの五字句も七字句もどれも四拍となっています。そういう理由で調子がいいのです。これが日本の韻文の韻文たる由縁です。

右の、どの五字句も最後に一拍の休止が必ず入り、七字句について休止がなく直ぐ続くというのは、例えば、五七五七の

丘に登れば 花いばら

故郷の道に  
似たるかな  
は

丘に登れば花いばら  
故郷の道に似たるかな

(○は音・●は休止)

と「丘に登れば」と「故郷の道に」の七字句は休止を入れず直ぐ次の  
 五字句に続けて四拍子四句で読んでいます。

また例えば、冒頭の五七五・七五の

憂いつつ 丘に登れば 花いばら

故郷の道に似たるかな

憂いつつ 丘に登れば花いばら 故郷の道に似たるかな

|                       |                       |                                  |                                  |
|-----------------------|-----------------------|----------------------------------|----------------------------------|
| <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input checked="" type="radio"/> | <input type="radio"/>            |
| <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/>            | <input type="radio"/>            |
| <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/>            | <input type="radio"/>            |
| <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/>            | <input type="radio"/>            |
| <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input checked="" type="radio"/> | <input type="radio"/>            |
| <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/>            | <input type="radio"/>            |
| <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/>            | <input type="radio"/>            |
| <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/>            | <input checked="" type="radio"/> |

と同じように続けて四拍子五句で読んでいます。

もし、これが五七五七五

憂いつつ 丘に登れば

花いばら 故郷の道に 似たるかな であれば

## 投稿要領

- 1 提言、苦情、話題、問答、意見など
- 2 ロータリー文芸
  - (1) 随筆
  - (2) 俳句・短歌・川柳ほか
  - (3) 善語座右・四字熟語（座右の銘・夫声人語的な文・モットーなど）
- 3 ロータリー会員相互の親睦を深めるもの
- 4 同好会、趣味の会など
- 5 クラブの催しなど
- 6 クラブの奉仕活動など

[illegible]

と、丘に登ればの後、二拍程休止して、氣分を転換し、新ためて、花いばら故郷の道に似たるかなと入らなければ調子が出ません。

以上のように、五・七の字数の句は、知らず知らずにすべて四拍で読んで調子を整えています。すべて四拍子で読んでいます。この調子が和歌の韻文である核心です。

そうしますと、五字七字というのは字数は視覚的な現象であつて四拍であれば六字でも八字でもよく、字余り・字足らずと異端視することは見当違いであるということが判ります。

さあ、お正月をキリツと締めましょうか。三三七拍子で…。いや  
四四拍子で…。

- 原稿量……概ね400字程度以内でお願いします。
- 宛先……ガバナ―事務所、『奉仕の理想』編集室宛 18ページ参照  
写真があれば添えてください。
- 形態……投稿者のクラブでの肩書、お名前を明記してください。  
Eメール governor08-09@rotary2760.org
- 締切……発行の2ヶ月前を締め切りとします。  
(例 3月号の締め切り…1月末)